

日造協ニュース

2015.2月号
通巻第491号

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

本号の主な内容

- 2、3面 【特集】日造協 会員 各種コンクールで受賞 受賞作 一挙紹介
第30回 都市公園コンクール 国土交通省都市局長賞ほか
第13回 屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール 国土交通大臣賞、環境大臣賞ほか
- 4面 【学会の目・眼・芽】 地方創生・地域活性化に求められる造園の力とは？
(公社)日本造園学会理事・富山大学地域連携推進機構 教授 金岡 省吾
【緑滴】 日常を離れて宝探し 藤田 文子 (株)琴花園

日造協会の方々への「日造協ニュース」は偶数月がPDF版の配信で、印刷物の発送は行っていません。会員の方々へのメールニュースへの添付、日造協ホームページに掲載していますので、ご活用ください。



2015年新年造園人の集いの閉会にあたり、女性参加者とともに掛け声をあげる枝吉 CLA 会長

2015年新年造園人の集いは158人の世話人により1月5日、東京都港区高輪の品川プリンスホテル「プリンスホール」で開催され、造園の学界、官界、産業界をはじめ、広く関連業務に携わる方々約600人が参加して盛大に行われた。

2015年新年造園人の集いは、(一社)日本公園緑地協会の霊山明夫常務理事の進行で行われた。

冒頭、世話人を代表し、伊藤英昌(一社)日本公園緑地協会会長が、「造園分野は拡大とともに細分化し、根底が希薄になりつつある。お集まりの皆さんはそれぞれの分野を代表される方々でもあり、連携を図っていただきたい。多様性も大事だが、まとまることも重要で、そうすると力が出ると思う」との旨を述べた。

学界からは、下村彰男(公社)日本造園学会会長が、「日本造園学会は今年で90周年を迎え、社会的にも少子高齢化、人口減少、国際化などの転換期を迎えている。改めて、造園、ランドスケープ、緑に関わる方々と議論を重ね、継承と変革をテーマに産官学が連携を図り、さまざまなイベントを通じて、社会に展開できればと思っている」と述べた。

次いで行政から、舟引敏明国土交通大臣官房審議官が、「国土交通省では大きく2つの重点課題があり、1つは東日本大震災の復興であり、全力をあげて努力していきたい。2つ目は都市計画の大きな見直しで、国際競争力のある都市の形成、人口減少時代を迎える地方都市をどうするかである。昨年は地方創生担当大臣も設置され、臨時国会では地域再生法もつくられた。都市計画では、都市再生特別措置法を改正、我々はコンパクトシティ法と呼んでいるが、人口が減少する中での街づくりのあり方を盛り込んだ法律である。まだ法律ができただけで、実際の街づくりを行うのはこれからで、縮小の街づくりは世界的にも初めてといえる。ランドスケープの世界にもさまざまな課題が出てくるものと思う。英知の結集が必要だ。また、都市計画法がもうすぐ50年になる。この50年間に、新都市計画法、5カ年計画を実施し、昭和45年に14,000haだった都市公園が120,000haと8倍になり、一人当たり面積も10㎡を超えた。緑の基本計画は20年間でほとんどの都市で整備され、さまざまな開発において、緑を確保することが当たり前になってきた。これらは先輩方の努力で、間違いなく造園の領域が広がっているが、先ほど述べたように、今後の街づくりは初めての取り組みで、拡大時は細分化が有効だったが、縮小時は

総合化、統合化が必要だ。造園人も統合と連携を図り、これまでに築いた大きなストックを活用したい」と述べた。

塚本瑞天環境省自然環境局長は、「自然環境局は生物多様性の保全を政策の柱とし、国立公園や国民公園の管理や整備を行っている。昨年は国立公園が80周年を迎え、ちょうど10年ごと開催の世界国立公園会議がシドニーで行われ、日本のイニシアチブで「アジア保護地域パートナーシップ」を発足することができた。アジア地域は自然災害が多く、自然と共生しながら生きてきたことを世界に発信していければと思っている。3月には仙台で国連防災世界会議が開催される。早速、自然地域がどういう役割を果たしたかを発信したい。人口減少は新たな都市づくりの一方で、人がいなくなっている場所も課題で、鳥獣の被害対策も重要。昨年は鳥獣保護法を改正した。シカやイノシシの半減を進め、東京オリンピックに向けては、国立公園の多言語化などに取り組みたい」と述べた。

□■□

その後、新春放談として、涌井史郎東京都市大学教授が、「造園界のシーズを時代のニーズにマッチングさせ得るのか～フォロー・ウインドが吹く2015年～」と題して講演。「1972年にローマクラブが「成長の限界」で予見した通りの状況になっており、地球の環境収容能力を考え、人間と自然のバランス、北と南のバランスなどを調整していかなければならない。ひたすら豊かさを求める時代が終わったのではないかと考えているときに、東日本大震災が発生した。陸前高田市の津波到達点上に桜を植樹する「桜ライン311」のポスターに「私たちは、悔しいんです。」とある。先祖から伝承を活かせず惨禍を招いてしまったことが悔しいと。また、「奇跡の一本松」は東北の造園人が私財を投げ打って守ってきたものだった。こうしたことから造園では、震災の記憶と教訓を後世に伝えたいと要望し、昨年10月「国営追悼・祈念施設の設置」が閣議決定された。一方で2020年の東京オリンピック開催が決定したが、オリンピックもIOCがオリンピックレガシーとして、より良い遺産を開催都市に残さなければならぬと定め、ロンドンではオリンピックパークで

樹林

日造協理事、庄内園芸緑化(株)代表取締役 渡部 佐界



私の住んでいる庄内

私の住んでいる庄内は山形県の日本海側に位置し、長さ33km、幅1.5～3.5km、面積2,500haに樹齢3～200年の海岸林、クロマツの砂防林に覆われた庄内砂丘があります。

飛砂を防ぐ防砂林が砂丘地農業や庄内平野の稲作など、地域産業と暮らしを守る盾の役目を果たしております。

庄内の砂防林は、かつて存在した自然林を破壊し、砂漠化という自然の報復を受けた反省から始まり、およそ300年前「飛砂」の猛威に苦しんだ人々が、荒れ狂う砂丘を静めるために植林を始めました。絶え間ない植林の努力の結果ようやく不毛の砂丘をクロマツの緑で覆うことに成功した歴史的な遺産でもあります。

2007年には「身近な松原散策ガイド」「日本の美しい白砂青松」で紹介されるまでになり、松くい虫被害がやっと下火になって来ていましたが、昨年度より30%増え、さらに増える見通しです。

松林に莫大な被害をもたらす松くい虫被害は、病原となる「マツノザイセンチュウ」という体長1mm未満の線虫が幹に入り込んで増殖し松を枯らしますが、この線虫を運ぶのが「マツノマダラカミキリ」です。

被害の増大については、①爆弾低気圧で幹折れや枝折れがあり、樹体を傷めた。②数年続いている大雪でマツ自体が弱まった。③夏の猛暑でカミキリムシの活動が活発化した。以上の3つが原因ではないかとされています。

この松くい虫が近年市街地まで被害が拡大し、神社、寺、公園、民家の「名木」と呼ばれた松も枯れる被害に遭っています。

砂防林の海岸砂丘造林を目的とした工事では、年次目標を設定し維持管理を行った結果、順調な生長がみられ、維持管理の必要性を実感しています。

主林木は、クロマツの2年生苗、静砂木としてアキグミ、肥料木としてイタチハギを混植し、冬期間海上から吹き込む寒風や塩風の被害を防止するため、静砂垣を植栽時に設置したことにより、幼苗を風害及び飛砂害から守り、10年ほどでクロマツは成木となり、間伐作業が発生している状況です。

この松くい虫の手当は、マツノマダラカミキリが羽化する6月頃までに集中して防除し、被害木は伐倒処理を進め被害拡大を防がなければなりません。また、ほとんど手の掛けられない松林をマツノザイセンチュウから守る方法の一つとして、地域の松林を清掃し、保全を行い健全な松を育て、被害を受けた松に適切な処置をすることが大切です。

生活を守り、暮らしに潤いを与えてくれる松林は「緑の遺産」です。また、「森づくりの文化」を守り伝える必要があります。私達は地域の方々に対し、松の大切さを伝えるインタープリター(橋渡役)となる大切な役目があります。

自然に逆らわない緑化が出来れば望ましいと思っています。



講演する涌井史郎教授



乾杯のあいさつを行う藤巻司郎会長

かつての工業用地を緑化し、東部に新しい自然豊かな公共空間をつくるなど、ランドスケープで見事にその答えを出した。東京では今後5年間に5ha以上の開発、36本もの高層ビルの建設が予定されている。開発は持続的未來への貢献や都市間国際競争力、レジリエンス性の高い・災害に強い都市が求められ、ランドスケープによる都市の活用が大きな課題となっている。造園には危機が生ずると必ず知恵を生み出す歴史がある。関東大震災では帝都復興計画があり、戦時中に防空緑地として確保され、東京の大規模公園の原型となった。我々造園人は持てるシーズを活用し、社会的ニーズを的確に捉え、新しい日本を切り拓く努力をしていかなければならない。2015年はこうしたことを考えるちょうどいい機会

だ」と造園人がこれからの時代に果たしていく役割を説いた。

乾杯は、産業界を代表して、藤巻司郎(一社)日本造園建設業協会会長が、「今年も皆様と新しい年が一緒に迎えられることを大変嬉しく思う。皆さんと力を合わせ素晴らしい年にしたいと思う」と乾杯を発声し、歓談となった。

閉会に際して、枝吉茂種(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長は、「東京オリンピックの開催に向けた取り組みの一つの契機であり、造園は10年後20年後の住みよい街づくりを考えていかなければならない。こうした中、女性の方々のますますの活躍が期待される場所である」と、会場の女性に登壇を呼びかけ、「造園これから頑張るぞ」と来場者に呼びかけた。

日造協 会員 各種コンクールで受賞

日造協会員の日頃の取り組みは、各種コンクールにおいても高く評価されています。今回は、平成26年度に決定した2つのコンクールの受賞作品を紹介します。

第30回 都市公園コンクール 国土交通省都市局長賞 造園施工部門(大規模)「泉公園パークゴルフ」千葉県印西市/泉公園

西武造園(株)、(独)都市再生機構首都圏ニュータウン本部千葉業務部

泉公園は、千葉県印西市の市街地内に整備された面積3.4haの地区公園で、中心施設としてパークゴルフ場を整備し、多目的広場などと合わせ、広く市民に親しまれる公園となった。

パークゴルフは1983年、北海道の公園で誕生したコミュニティスポーツで、文字通りパーク(公園)内で楽しめるゴルフである。クラブ1本でできる手軽さと、大人から子供まで、誰でも楽しめるプレスタイルが特徴で、多世代が交流するスポーツとして沢山の人がプレーを楽しんでおり、愛好者は全国に100万人ともいわれている。関東地方では、千葉県に施設数が多く、公認コースは本公園の施設を含めて11コースある。しかし、都市公園内に整備されているパークゴルフ場は、11コースのうち、わずかに2コースである。

泉公園パークゴルフ場は、千葉ニュータウンの中心部に立地し、本格的な公認

コースでありながら、都市公園という公共施設であるため低料金で誰もが利用できる市民施設である。競技プレーや大会開催も可能であり、ファミリーや愛好者はもちろん、上級者にも親しまれている。

本公園の施工における最大の特徴は、以下の2点である。

1. 現場での綿密な協議と確認の実施

設計図書では表現しきれない部分(各ホールやグリーン等の微妙なアンジュレーションや傾斜・プレーにおける安全性の確保等)が多く、発注者・公園管理者・施工会社等のそれぞれ専門の立場の担当者が、工事の各段階において、現場で協議し、確認することが必要とされた。

さらに、パークゴルフ協会のスタッフも交え、現場において必要な工事段階ごとに、綿密な協議、確認を行いつつ施工を進めていった。

2. ゴルフ場工事に豊富な実績を持つ施工会社の熟練技術による施工

受賞作 一挙紹介

コース整備において、設計図では表現しきれないアンジュレーションやグリーン面の傾斜、バンカーの配置など、豊富な実績や経験が要求される工事内容である。本公園パークゴルフ場整備工事においては、ゴルフ場工事に豊富な実績を持つ施工会社が担当したことで、都市公園において、戦略性が高く、本格的なパークゴルフ場が誕生した。



コスモスコース9番ホール



サクラコース 既存樹木の保全



スタート広場



コスモスコース2番グリーン

第30回 都市公園コンクール 国土交通省都市局長賞

管理運営部門「東京都立武蔵野の公園グループ」東京都・都立武蔵野の公園グループ 西武・武蔵野パートナーズ

都市公園は、環境の保全のみならず、地域活性、防災など、都市が抱える多様な社会的課題に対応した管理運営が求められている。

私たちは、武蔵野の公園グループ(武蔵野地域にある10公園2緑道の都立公園)を管理運営するにあたり、公園がリード役となって、様々な主体が参加しながら、これらの課題に対応する公園管理「むさしのパークイニシアチブ」を展開している。これは、産官学民連携による公園プログラムを展開し、公園の魅力や価値を高め、公園を拠点とした価値ある暮らしの実現など、広くまちづくりに貢献する公園管理を実現する取り組みである。

今回は4公園の事例を紹介したい。

武蔵国分寺公園は、利用者発案のプログラムとして子育て世代を応援する「絵本と公園の日」や地元クラフト作家が集まった「クラフトマルシェ」を実施した。府中の森公園は、公園に近接する府中

市立美術館、劇場、生涯学習センターと連携した「府中の森文化まつり」の開催に際し、平成25年度から運営会議を立ち上げ、施設連携プログラムの充実やPR効果の高いチラシなどを作成し来園者数が倍増した。このように両公園では地域のニーズを具現化したプログラムの実現により、地域の活性化に寄与することができた。

東大和南公園は、平成24年度から東大和市、消防、警察、自衛隊に呼びかけ「防災フェスタ」を開催した。平成25年度には、公園と市との共催に発展させ、昨年度の取り組みに加え、子どもから大人まで周辺住民参加の下で参集訓練を行うまでになり、より実践的な防災イベントになっている。

武蔵野中央公園は、広い花壇を持つ公園特性を活かし、「公園から始まるガーデニングライフ」を公園のテーマに設定し12種類の参加プログラムを持つ「コ

ミュニティガーデナー講座」を開催した。多くのガーデナーを輩出し環境の保全・向上に貢献している。

このように武蔵野の公園グループでは、それぞれの公園で産官学民の連携による「まちづくりに貢献する公園」づくりの芽が出ている。今後もこの取り組みを進め、地域と共に更なる公園の可能性を広げていきたい。



絵本と公園の日(武蔵国分寺公園)



府中の森文化まつり(府中の森公園)



防災フェスタ(東大和南公園)



コミュニティガーデナー養成講座(武蔵野中央公園)

第30回 都市公園コンクール (一社)日本公園緑地協会会長賞

造園施工部門(大規模)「(仮称)練馬区立日本銀行石神井運動場跡地公園整備工事」 東京都・練馬区/練馬区立石神井松の風文化公園

アゴラ・小関・勝楽建設共同企業体

1. 周辺環境及び概要

当該施設は、隣接する都立石神井公園と一体の緑地として、練馬区にとっても重要な場所として存在している。

本公園南側に隣接する石神井公園には照姫伝説が残り、照姫まつりが行われる練馬区での重要な文化拠点であるほか、武蔵野三大湧水池のひとつである三宝寺池、その周辺には貴重な植物群落がみられるみどりの拠点でもある(写真1)。

歴史ある日本銀行石神井運動場跡地を4.8haある敷地の現況の風格を活かしつつ、グラウンド、テニスコートをはじめとし、外周園路等を再整備する工事である。

2. 隣接歩道空間の整備

(1) 地域の要望

公園隣接歩道を広げて欲しいとの要望が、基本計画当初からあったが、その要望が反映しきれていない設計内容であっ

た。

公園南側に隣接している練馬区道は、公園用地を区道として提供し、公園と道路が一体化された造園空間が施工される内容となっているが、公園北側の富士街道と隣接している箇所は、道路管理者が異なることが要因で、現況を変えない施工内容であった。

通行者は、管理者がどこかを問わず、歩道が広がることを求めており、歩道幅を提起するため、利用状況を調査した。

(2) 公園北側隣接部における提案

北側に隣接する都道は石神井公園駅への通勤路となっており、歩道幅員は1.5m程度(写真2)であるため、歩道通行者とバスを待つ人が交錯する状況がみられていた。当初設計は敷地境界の擁壁を再利用し、フェンスを張り替えるものであった。セットバック提案を目的に、近隣住民、通行者へのアンケート、所管警

察や自治会へのヒアリング、イメージパス(図2)などを作成し、歩道幅の有効性を確認検証した。

公園設置者と道路管理者に対し、拡幅整備の必要性を提案書にまとめ、協議を促した。内容の妥当性を双方理解していたが、公園設置者と道路管理者が異なっていたため調整が困難であった。

粘り強い協議の結果、公園設置者の敷地提供、道路管理者の歩道再整備が決定。公園と歩道とが一体化した自治体の枠を超えた設計と施工が実現した(写真3)。



写真1



写真2



図2



写真3

第13回 屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール 国土交通大臣賞
屋上緑化部門「目黒区立天空公園」東京都目黒区

目黒区 / 首都高速道路(株) / 東京農業大学地域環境科学部造園科学科
名誉教授 近藤三雄 / (有)アースグリーン / 戸田建設(株) / (株)日比谷アメニス

中央環状線(山手トンネル)と首都高速3号渋谷線とが接続する大橋ジャンクションは、都市環境の改善と生物多様性の確保の観点から、3つの緑「公園の緑」「街並みの緑」「自然再生の緑」を整備した。地上高10~34m、幅16~26m、面積約



7,000㎡の回遊式和風庭園「目黒区立目黒天空庭園」は、全国初のジャンクション屋上の公園整備である。

屋上公園の設計にあたっては、地域住民と公園づくり検討会を複数回開催し、合意形成を図ることで基本設計を策定しており、回遊・発見する天空の庭、みどり豊かな潤いある屋上庭園、和みの空間づくりを基本方針として整備され、現在も多くの来場者に利用されている。

ここで導入された技術のうち特徴的なものは3つあげられる。

①植栽配置計画

コンセプトに対応し、使用する植物材料の選定にあたっては、四季を通じて

様々な草花や樹木の“彩り”や“香り”を楽しみ、発見できる空間となるよう、各ゾーンごとに多様な樹種を配置した。②ジャンクション屋上に対応した植栽基盤
ジャンクション躯体保護のため、屋上には防根機能も期待できるポリウレタン吹付塗膜保護防水を採用、さらに防根シートも敷設。防水層と防根シートを保護するため、厚さ80mmの保護コンクリートを打設。軽量盛土工では上載荷重2.0t/㎡の制限に対して、軽量嵩上げ材として発泡スチロール製のEPSを設置した。

③回遊式和風庭園としての修景施設

つづら折りした園路(原則勾配5%以下)や適宜階段を整備することで、回遊・発見する庭園のコンセプトを実現し、

信楽焼を使用した舗装タイルやプランター、タマリユと自然石で市松模様を描いた壺庭など、和風庭園としての修景施設を整備した。



第13回 屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール 環境大臣賞
屋上緑化部門「新目黒東急ビル屋上庭園」東京都品川区

東急不動産(株) / 清水建設(株) / (株)フィールドフォー・デザインオフィス / 東光園緑化(株)

目黒駅隣接のテナントオフィスビルで、屋上緑化をテナントの専有部に組み



込み、“働く”ことと“緑”を密接に関係させ、より一層の屋上緑化の普及を見込むマイルストーンとなる試みであった。

1. 特徴ある緑化計画と持続性のある維持管理技術

①連鎖する緑 地上と屋上を段丘状に連続させ、高さや平面規模を変えることで、多様な空間の“緑の丘のビル”を表現した。

②ワーカー&未来につながる管理

庭園内の草花を全館のトイレに生け、ワーカーと自然の繋がりを演出し、好評を得ている。きめ細やかな植栽管理のため、各階に植物の養生スペースを確保し、開

花を待つ草花類をストックしている。

2. オフィスワークと屋上緑化をつなぐ技術

オフィステナントの専有空間として、室内オフィスワークを“外で働く”という新しい働き方に延長する舞台としてつづらえ、“緑と人を近づける”ことを重視した新たなトータルデザイン技術として試み、外で働きやすい設備環境としてコンセントやLANを設置した。

3. 生物多様性に配慮した緑化

豊かな自然が残る周辺の緑地帯と生態系のネットワークを形成するように生態系調査を実施した上で確認された生き物の餌となる樹木を植樹し、ワーカーに生物多様性保全の取り組みを理解頂けるよう工夫をしている。



第13回 屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール 日本経済新聞社賞
屋上緑化部門「中之島四季の丘・ダイビル本館」大阪府大阪市

関電不動産(株) / ダイビル(株) / (株)日建設計 / (株)大林組 / 住友林業緑化(株)

本緑地は駐車場躯体上につくられた屋上庭園である。堂島川側へ緩やかな傾斜にて盛土し、外見は屋上緑化とは分かりにくい形状になっている。施工面積は約3,700㎡、中高木150本程度を植栽している。都市の高層建築物の中の自然な緑の丘の創出として、春を主体とした花木類を多く植栽することにより季節感が得られ、緩やかで広がりのある存在感ある緑の丘を形成している。隣接する河川沿いの緑地の花木類を植栽し、遊歩道と連続性を持たせることで、周囲と一体と

なった空間として河川の船上や対岸からの眺めを意識した景観を形成している。

工法・施工面では、存在感のある丘を形成するため、地下施設躯体上の人工地盤であることから植生基盤はスタイロフォームと人工軽量土による軽量盛土材を積み上げ、ズレや土壌流出防止に留意した。特にスタイロフォーム全てに溝を設け、縦横排水の流れを遮断しないようにし、軽量土壌との間に排水層を設け表面水を流出させる等、排水対策を行った。

軽量土は流出防止や地盤としての締固

めと、植生基盤としての適した土壌硬度との調整に苦労した。

こうしてコンセプトに沿った都市の中の緑量ある丘の形成が実現できた。



第13回 屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール (公財) 都市緑化機構会長賞
屋上緑化部門「プライド大井ゼームス坂」東京都品川区

プライド大井ゼームス坂管理組合 / 野村不動産(株) / (株)日建ハウジングシステム / (株)安藤・間 / イビデングリーンテック(株)

高台に建つ戸数164戸の集合住宅の2階~11階の屋上につくられた大小様々な屋上庭園である。特徴的な緑化技術として、①屋上緑化技術で作る様々な屋上庭園、②雨水を利用した灌水システム、③地域を知り緑を楽しむマンションライフのサポートの3点が挙げられる。

作品は高台立地で風が通り抜ける特性を活かした緑化計画となっており、「風を感じるガーデン」「そよ風ガーデン」「観賞の庭」「成長の庭」のほか、専用庭と共用庭からなる「カスケードガーデン」

で構成されている。この専用庭は居住者が好みの植物を「メニュー」の中から選択できる方法を採用した。

最上階(11階)の「そよ風ガーデン」では強風対策、5階屋上の「風を感じるガーデン」では軽量土壌を用いてマウンディングによる奥行きのある提案を演出するなど、各庭園ごとに特徴を持たせて工夫を施している。また一部には雨水を利用し、自然流下の灌水システムを採用し節水・省エネの点でも工夫を凝らしている。

入居後、居住者の皆様にミニ植物図鑑を手にしていただき植物観察会を実施し、緑を楽しむマンションライフを提供している。



第13回 屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール (公財) 都市緑化機構会長賞
壁面・特殊緑化部門「東急プラザ赤坂オープンコリドール 野に咲く花の回廊」東京都千代田区

東急不動産(株) / (株)石勝エクステリア

ホテルを含む複合商業施設の2階店舗前オープンコリドールに整備された1,368㎡の緑化空間である。「野に咲く花の回廊」をコンセプトに新たな緑化技術の導入と在来種を中心とした植栽設計、さらには、施工後の維持管理技術により四季を通じて60種類以上の山野草類の豊かな表情が楽しめ、都市生活者の心を癒している。

特徴的な緑化技術は、①誘引緑化工法、②立体緑化工法、③維持育成管理の3点である。

誘引緑化工法「クライムサポート」は、コリドールへの日射の遮蔽や蓄熱の軽減を図るため、つる性植物を用いて歩行空間に緑陰をもたらすように植物が絡まりやすい材料と形状で、より速やかな帯状の誘引緑化を可能としており、低コスト、低加重による緑被率の最大化も実現している。

立体緑化工法「バイオキューブ」は、多面植栽が可能な立体緑化基盤であり、在来種の山野草を中心に上部には野趣に富んだ中低木をアクセントにした多品種

混交植栽を行い、季節感豊かな潤いのある景観を創出している。

維持育成管理は、特殊基盤での環境適正植物調査により、四季の移ろいや冬期景観に配慮した補植作業を実施することで「野に咲く花の回廊」を実現している。



地方創生・地域活性化に求められる造園の力とは？

公園・緑地の新たな必要条件

(公社)日本造園学会理事・富山大学地域連携推進機構 教授 金岡省吾

前回(H22)、CSRの一環ではなく、産学官金での環境と経済の両立を目指す地域づくりを紹介しました。

あれから4年半、地域づくりがさらに変化しています。CSRの概念が、受動的CSR→戦略的CSR→CSV(共通価値の創造)へと、企業活動にて「環境」「子育て支援」「高齢化支援」等の地域課題を解決し、地域経済の繁栄を目指すものへ変化しています。

「新たな公」も地域ビジネス創出・小さな拠点形成と、雇用創出や地域経済の活性化を伴う地域づくりへの深化を求めています。この変化は地方創

生に連動しているのではないのでしょうか。

年末から地方創生戦略策定の動きが活発化し、産学官金による地域ビジネス・小さな拠点形成について、県内外から相談を受けています。諸先輩方が指摘するように、この動きは造園業界とも無縁ではないと思います。

ランドスケープ研究69(2)にて中瀬先生は、『『新たな公』は専門職能集団として造園産業が重要である』と示唆されました。H24JILA中部支部大会にて高梨氏は、「子育て支援や高齢化対応など、人口減少時代の新たな社会

的要請をビジネスチャンスと捉えた造園の業態変化の必要性」を話題提供されました。

住宅業界の中に、CSVを経営理念の根幹に据え、「住宅が変われば社会が変わる」を掲げる企業が存在し、この企業は従来からの武器である住宅・造成面での工夫のみならず、子育て支援ソフトを組み込み、地域課題解決＝地域再生を新たな武器とすることで企業競争力を強化しています。

別の企業では、賃貸住宅において、住宅構造や外構緑地への工夫とともに、子育てコミュニティを育むソフトを組み込み、人口減による新たな社会的要請をビジネスチャンスと捉えた事業展開に挑戦しています。

A県では保育園改築コンペにて造園

業者参加が求められたと伺いました。公園の整備・運営が、地域課題を解決＝地域再生に貢献できるのかが問われているのだと思います。つまり、地域再生に資する「新たな造園の力」が問いかげられ始め、公園・緑地の必要条件が変化しつつあるのではないのでしょうか。

富山の小さな自治体でも、保育・IT・造園・金融・住宅等の産学官金連携にて、地域ビジネスによる子育て世代の人口流入に挑戦し始めました。

公園整備・運営の管理指標は利用促進にとどまらず、地域活性化・地域再生・地方創生に資するアウトプット指標やアウトカム指標の設定を、造園企業の皆さんに求める時代が足下にせまっているのではないのでしょうか。

成26年度事業報告・決算報告等について審議した。(2/3)

●技術委員会
今年度の事業報告と来年度の活動方針の確認、資格制度関係の状況報告および海岸部被災地視察を行った。(1/30-31)

●事業委員会(要望・提言活動部会)
環境省の「平成26年度国立公園等事業の適切な執行に関する懇談会」に卯之原技術委員長、鈴木部会長、高梨顧問が出席し、日造協提出意見を説明しヒアリングに対応した。(1/27)

●資格制度委員会
各総支部・支部から頂いた資格制度の改善に向けた意見について対応を検討。(仮称)公園・緑地樹木剪定士、(仮称)低影響開発造園技術者の新制度設立について検討し、担当者を決めた。(1/22)

●国際委員会
国際園芸博覧会などに対応した日本庭園の出展のあり方、海外の日本庭園の作庭事例や標準的な作庭費等について検討し、日造協としての専攻情報収集を行うこととした。AIPHスプリングミーティング、総会への対応と会議出席者について検討し、党内委員、山田委員が参加する方向で対応することとした。そのほか、海外視察ツアーの企画、造園の発展的情報基盤とするための海外の街路樹と管理手法の事例収集や外国人技能実習制度、来年度の予定について検討した。(1/28)

●アクションプログラム推進等特別委員会
造園界の将来構想について意見交換を行い、法制度や受発注環境の変化に対応した活動や女性就業促進検討特別部会のアンケート結果を報告し、メンバー構成と今後の活動方針を検討。会員拡大プロジェクトチームの活動方針について意見交換を行い、今後の活動方針等について検討し、3月の総支部長等会議で問題を共有し、各地域の状況に合わせた対策チームの設置が提案された。(1/29)

事務局の動き

- 【1月】
- 5(月)・国土交通省、環境省ほか新年挨拶回り
・新年造園人の集い
- 9(金)・新春造園界の集い
- 8(木)・登録造園基幹技能者講習(東京会場)～9
- 15(木)・事業委員会(要望・提言活動部会)
・技術委員会(安全部会)
- 18(日)・職長教育講習会(九州総支部)～19
- 19(月)・関東・甲信総支部と関東地整道路部との意見交換会
- 20(火)・技術委員会(技術企画部会)
- 22(木)・資格制度委員会
- 25(日)・第41回全国造園デザインコンクール審査会
- 27(火)・国立公園等整備事業の適切な執行に関する懇談会
・事業委員会(造園フェスティバル推進部会)
・九州総支部・支部交流会
- 28(水)・総務委員会(経営環境改善部会)
・国際委員会
・登録造園基幹技能者講習(山口会場)～29
- 29(木)・アクションプログラム推進等特別委員会
- 30(金)・技術委員会～31

- 【2月】
- 3(火)・総務委員会(財政・運営部会)
- 4(水)・技術委員会(調査・開発部会)
- 5(木)・運営会議
- 6(金)・沖縄国際蘭博覧会審査会
・事業委員会(人材育成部会)
- 9(月)・総務委員会(広報活動部会)
- 11(水)・職長教育講習会(近畿総支部)～12
- 13(金)・事業委員会
- 14(土)・第41回全国造園デザインコンクール表彰式
- 15(日)・地域リーダーズ勉強会～17
- 17(火)・街路樹剪定士指導員研修会～18
- 18(水)・東北総支部・支部交流会
- 24(火)・第2回造園施工管理技術検定委員会
- 26(木)・登録造園基幹技能者講習(北海道会場)～27

委員会等の活動

●総務委員会(財政・運営部会)
平成27年度事業計画案・収支予算案の作成、平

証紙(1日分310円)を貼り、労働者は、雇用される企業がかわっても、その企業が建退共に加入していれば、継続して共済証紙を貼ってもらうことができる。建設業界全体での退職金制度となっており、退職金は24月(21日を1月と換算)以上の掛金納付(労働者本人の死亡による請求は12月)により、建退共制度を運営している建退共本部から直接労働者本人へ支払われる仕組みとなっている。

事業主が全額負担となる掛金は、法人については損金、個人企業については必要経費として、税法上の優遇措置がとら

れており、新たに加入した労働者については、掛金の一部(初回交付手帳の50日分)が国から補助される。

また、建退共制度の適正な履行により、経営事項審査の加点対象となるなど、企業にも利点のある制度となっている。

退職金制度は、労働者に安心を与え、事業主にも人材確保等、企業価値を高める等、事業主・労働者双方にとって有意義な制度となっている(詳細下記参照)。

問合先:(独)勤労者退職金共済機構
建設業退職金共済事業本部

☎03-6731-2866

編集後記 新年1カ月がアツと言う過ぎ、今年最初の編集会議でした。今年もより良い紙面になるよう頑張ります。



日常を離れて宝探し

(株)藤田文子



春は桜でお花見、天気の良い日は仲間とパターゴルフ、時には童心にかえっての「草そり」など、楽しみ満載な「琴平スカイパーク」は、長崎県大村市郊外にそびえる琴平岳山頂一帯、約7haの自然公園です。弊社は現在、指定管理者としてこちらの管理運営を担当させて頂いております。

琴平スカイパークでは年に一度イベントを開催しており、私もイベントスタッフとして参加しています。小さいお子様から家族連れのお父様、お母様まで、多くのお客様にご参加頂いております。

イベントでは、「おもちゃの金魚すくい」や「シュロの葉でのバツタ作り」、「花植え体験」など、様々な催しを行っています。中でも特に人気の催しが「宝探し」で、公園内で「宝の地図」に記されている場所を探し、「暗号(問題)」を解読して、「宝(解答)」を探し出す、体験型ロールプレイングです。見

事「宝探し」に成功し、ガラガラ抽選に当たると、ラジコンカーやサボテンなど様々な景品を獲得することができます。実際に自分の足で宝を探しに行くという、普段なかなか味わえないワクワク感があり、幅広い年齢層のお客様に人気です。

イベント開催中、走り回っている子供達の姿に癒されつつ、お客様が楽しんでくださっている様子を目にすると、本当に嬉しい気持ちになります。私にとって年に一度のイベントは、普段お話しする機会のない地域の方々と触れ合うことができる貴重な経験となっています。



花植え体験



おもちゃの金魚すくい

建設の現場で働く人のための退職金

「建設業退職金共済制度」(以下「建退共制度」とは建設現場で働く労働者のための退職金制度である。

この建退共制度は、国が作った制度であり、中小企業では行うことが煩雑とな

る退職金制度を相互扶助の精神の基、「中小企業退職金共済法」という法律に基づいて運営されている。

事業主が現場で働く労働者の共済手帳に働いた日数に応じて、掛金となる共済

建設業界の皆様へ

建退共への加入のおすすめ

福祉の増進と企業の振興のための国の退職金制度です

- 17万建設事業所が加入、306万人の建設現場の就業者が退職金支給対象となっています。
- これまでに累計で221万件、1兆5,669億円の退職金をお支払いしています。(平成26年12月末現在)

建設工場の第一線で働く優秀な人材確保にも寄与!

- 加入できる事業主
建設業を営む事業主
- 対象となる労働者
建設業の現場で働く方
- 掛金は
一日 310円
(加入労働者ひとり)

- ◎法律に基づき運営される国が作った制度
- ◎建退共加入は「経営事項審査」で加点評価
- ◎国からの財政上の支援
(国の助成により掛金の一部が免除)

- ◎掛金は全額非課税
(損金または必要経費に算入できます)
- ◎複数の企業間を就業しても通算して退職金を支給
- ◎加入の手続きは簡単
(各都道府県の建退共支部で加入)

こんなに有利!

掛金納付年数	掛金総額	退職金額
40年	312万円	563万円
35年	273万円	461万円
30年	234万円	372万円
25年	195万円	293万円
20年	156万円	221万円
15年	117万円	155万円
10年	78万円	94万円

※退職金額は、1年につき、310円(1日)×21日(1ヶ月)×12月(1年)の掛金を納めたときの金額です。
※1万円未満は、四捨五入しています。

独立行政法人 勤労者退職金共済機構 〒170-8055東京都豊島区東池袋1丁目24番1号(ニッセイ池袋ビル)
建設業退職金共済事業本部 TEL 03-6731-2866(ダイヤル) FAX 03-6731-2895

建退共のホームページをぜひ、ごらん下さい

建退共

検索